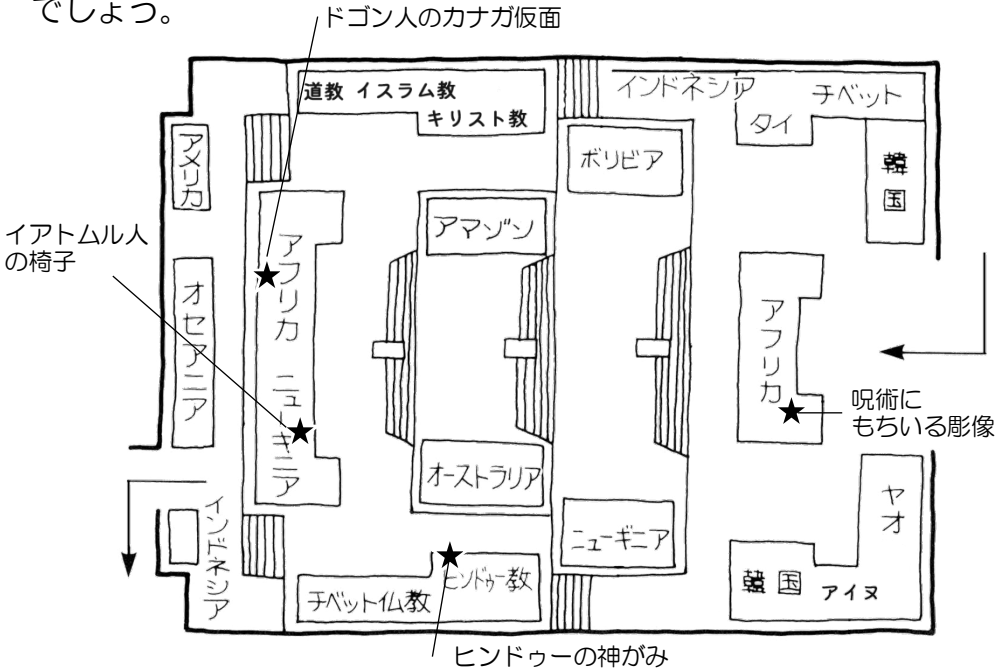


ほんかんだい しつ うちゅう かち
本館第5室：こころの宇宙——価値

ヒトは ^{せかいかん}世界観 をもち、そこに自分を位置づけることにより、ただ生きるのではなく、生きる意味や価値を見いだしました。これこそ他の生き物とは ^{こと}異なる、私たち人間の最大の特徴といえるでしょう。



この展示室では、人間が心の中に ^{つく}創り出したイメージの表れとして、世界各地の ^{しゅうきょう}宗教 や ^{ぎらい}儀礼や ^{けいじゅつ}芸術 を紹介しています。

VALUES

People have their own world view and add the color to the life. This hall presents religion, rituals and arts, as representation of the meaning of life.

じゅじゅつ ちようそう
呪術にもちいる彫像

これは、コンゴ民主共和国（旧 ザイール）に住むコンゴ人たちの呪術医の彫像である。体中に鉄片が埋め込まれているようすを見て、ワラ人形に五寸釘を打ちつける日本の呪術を思い出す方が多いと思う。ところがこれは、他人を突然の不幸におとしいるために使用する人形ではない。かえって、他人からの邪悪な呪術から護ってくれる呪術医を表わしており、防御のために使用するものなのである。

彫像の腹の部分には二つの突起がある。ここには、呪術から守ってくれる呪薬が納められているのである。この突起には、鏡の破片をつけたふたがされる。鏡は、悪霊の目をくらませる、あるいは見えなくする働きがあるとされている。また、彫像の手には、小さな槍や刀が持たされていて、これで悪霊と闘うとされている。口は開かれ、体内にとりついた悪霊を吐き出しているようすを示す。呪薬は腹だけでなく、頭に納められていることもある。

一般にアフリカの彫像では、男女の違いが明確に外見で分かるように彫ってあるが、この彫像では、男女の差はさっぱり分らない。ただ、呪術医、あるいは、悪霊から身を護るための彫像としての特徴があるだけである。同様な特徴をもった彫像は、人物像だけでなく、動物の像としても作られることがある。

